

団体名

長岡京市農ある環境を守る会

採択事業名

結(ゆい)のこころを育む地産地消・食育プロジェクト

① 採択事業の概要

1 解決したい地域課題とその背景

- ・ 長岡京市は都市化が進み、農地の減少傾向が続いている。そのため農業の担い手が減少し、農の魅力や農地の公益的機能を市民に伝えることが難しくなってきた。
- ・ 地域で栽培する食材が減少し、地域文化である郷土料理は食卓から消えつつある。パン食や洋食の普及で日本の伝統である食文化が大きく変化してきた。
- ・ 例えば、お正月の「白味噌のお雑煮」やお盆の「ぼたもち」などもつくる機会が減り、四季折々の郷土料理の伝承も重要な地域課題と考える。
- ・ 多くの市民が、食や農が地域環境と密接な関わりがあることを再認識し、食の安全や地元産の食の大切さを学べる機会を創出することを大きな目的とする。
- ・ そして地域における農の大切さや地域産の食についての魅力を市民に伝えるため、私たちは市民協働に重点を置き、「結い」の力(結い:互いに助け合うこと)を集結し、市が重点施策にしている地産地消の取り組みや農業者と共に地域での旬の野菜を使った食育を推進する。

2 上記の課題を解決するための申請事業の概要

- ・ 休耕田となっている農地を活用し、地元農家と協働で地元での代表的な野菜の栽培を行い、まずは自給的な農を実践する。
- ・ 農に興味を持つ市民と共に「農」を通じた交流や食育の推進をするため、①地元産の野菜の良さを知っていただくために、市民自らが栽培・収穫体験を行う機会を創出する、②加工や調理の体験会では、自分たちで栽培した食材利用し、郷土料理を作り食することで地域の食文化を学ぶ機会とする。
- ・ ①②ともに課題認識はできいても、実行することそのものが課題と考える。これらを実行し継続することで、食や農への関心が市民へ広く行き渡り、地産地消の取り組みを市民自らが栽培し調理するという、持続可能な食育活動へつなげる。

3 事業内容によって到達したい状態や目標

- ・ 「農」を通じた交流は、朝市や学校給食への食材提供、学校の授業での食育などで進められている。しかし、まだ多くの市民には市内産の食材の良さを十分に理解していないと考える。
- ・ 今回この事業で①地元野菜を市民と共に栽培収穫し、地元野菜の魅力を伝える②収穫した野菜や地元産の食材で郷土料理の伝承をすすめる。③人とのつながりを大切にし、いわゆる「結(ゆい)のこころ」を理解し合い、協働で活動する喜びを多くの方と実践する。
- ・ 今年は浄土谷地区の農地3区画から6区画に広げ、サツマイモ・大豆・小豆そして地域に合った野菜の栽培によりさまざまな収穫体験を行う。野菜の栽培・収穫作業は、地元農家など農業者の指導で行い、収穫の喜びを体験し、秋には収穫祭イベントを開催する。
- ・ また、2月には収穫した大豆から味噌づくりを JA 女性部の指導で行い、食と農の大切さを理解し多くのことを学び実践できるよう取り組みを行う。
- ・ 写真パネルやパンフを作成し、関係団体や地域に PR し市民への理解を深め、次年度以降も継続開催できる事業に育て上げる。

② 今年度の事業報告と今後の見通し

1 実際に実施した事業の内容と参加者数など成果

1)浄土谷地区の農家さんの協力で、収穫祭のイベントを実施できた。

- ・ 土づくりから種まき除草作業などを行いサツマイモ、大豆、玉ねぎ、小豆などを栽培。
- ・ 収穫祭告知チラシを作成配布し、10月26日に浄土谷棚田で収穫祭を開催。
- ・ サツマイモ収穫体験(参加47名)、いもご飯・いとこ汁・あまざけ(40食)、参加者121名
- ・ 参加料など売上げ41,700 円を計上した。
- ・ 11月下旬には、大豆を収穫し、天日乾燥、脱穀・選別の作業を行い、味噌づくりの準備をした。

2)収穫した大豆を利用して味噌をつくる体験会を小学校育友会の協力で実施できた。

- ・ 「親子みそづくり体験会」は、地元産の米で麹を仕込み、収穫した大豆ゆで、細かくつぶす作業を行い準備。体験会当日は、大豆栽培を写真パネルや紙芝居などで説明し、親子で味噌を作った(参加25名)。

3)成果 収穫祭では地元野菜を実際に収穫し、それを親子で調理して食べる体験していただけた。

- ・ みそづくり体験では大豆や米を発酵させることで、日本の代表的な調味料をつくることを体験していただけた。また、味噌汁やご飯を試食し、親子で郷土料理を味わいながら、来年度熟成した味噌を楽しみにしたいという感想をいただいた。次年度も継続する必要を感じた。参加者10組25名 参加料合計 3,000 円を計上した。

2 広報の方法＊参加者を公募した方法

- ・ 収穫祭とみそづくり体験会のチラシを作成配布。
- ・ 収穫祭のチラシは商店街のお店で配布いただき、会員による手配りで、案内した。
- ・ みそづくり体験会の広報は、長五小の家庭科室で行うため、地域の子供会に配布し、小学校 PTA 役員の方々に協力を得て案内し、参加者を募った。

3 収入を得る方法＊事業を今後も続けるための収入

- ・ イベント参加費を各回300円程度に設定し、材料費を負担いただくことで継続的に実施できるよう工夫した。
- ・ 収穫祭では、天候に恵まれ41,700 円の参加料収入を得た。みそづくり体験会では10組の参加で 3,000 円の収入を得ました。

4 次年度以降の事業の展開

- ・ 今後も会員メンバーで野菜の栽培準備を行い、市民向けのイベントを開催することで、食や農の大切さを知ってもらう。そして参加者には、材料費を負担していただき事業を継続する。
- ・ 新たな会員を募り、活動をより活性化して行きたい。今後はサツマイモ・大豆、玉ねぎ、小豆、ジャガイモなども栽培し、新たな収穫体験や郷土料理づくりのイベントを模索していきたい。

